

■ 業務の目的

北海道新幹線や新千歳空港を利用した観光客、平成 32 年度に白老町に整備される民族共生象徴空間に訪れる人々、人口が集中する道央圏域に住む人々を、むかわ町・日高町・平取町の 3 町からなる鶴川・沙流川流域に誘客することを通じて活性化を図ること目的として、そのために必要な地域の情報、特産品、人材等の流域資源を発掘・再確認し、活用していくための調査を行った。

さらに、その誘客を具体化する両流域の観光地域づくりの方向性と活用案の提案を行った。



■ 3 町の人口推移 ※ 国勢調査

町名	H22(人)	H27(人)	減少率(%)
むかわ町	9,746	8,593	11.8
日高町	13,615	12,377	9.1
平取町	5,596	5,310	5.1

■ 流域資源調査の実施項目

1. 資源調査（自然環境、社会環境、歴史文化資源、生活文化、交通アクセス、現地調査、地域資源図）			
2. 地域政策（3 町）			
3. 地域外からの来訪者アンケート（早稲田大学、北大の学生、教官の北海道合宿対象）			
4. 地域ワークショップ	3 町 5 地域、各 2 回開催	6. 地域づくりの方向性	3 町 5 地域
5. 聞き調査	3 町 46 団体	7. 活用計画案	モデルコース等

■ 流域資源ワークショップの開催

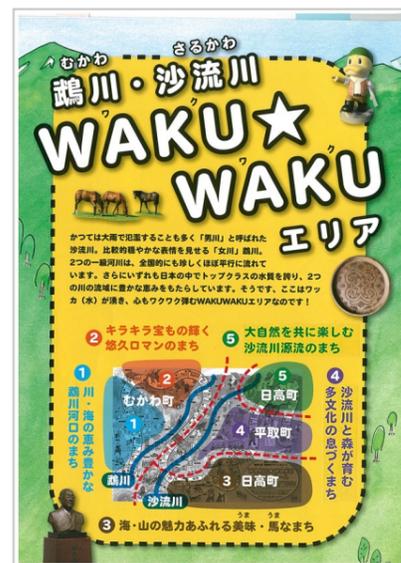
回	テーマ	参加者	3 町 5 地域での開催日程
1	地域の魅力「宝」発見	51 名	鶴川 10/24、穂別 10/24、門別 10/11、日高 11/9、平取 10/10
2	地域の宝の活かし方	57 名	鶴川 12/2、穂別 12/1、門別 12/2、日高 12/1、平取 12/3

■ 地域づくりの方向性（案）

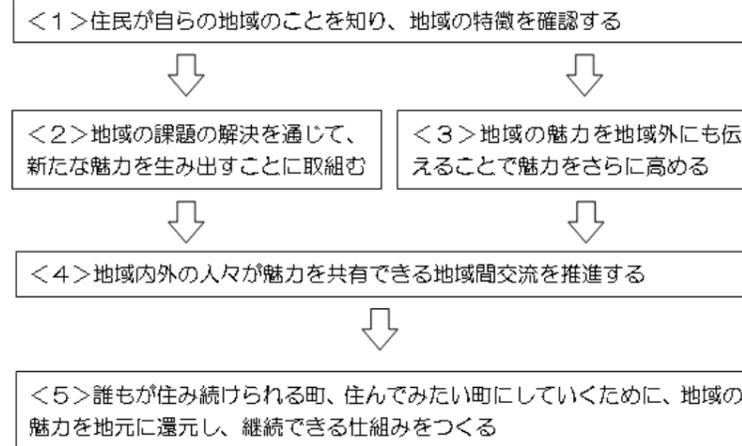
地域名	地域のテーマ（案）
むかわ町鶴川地域	川・海の恵み豊かな鶴川河口のまち
むかわ町穂別地区	キラキラ宝もの輝く悠久ロマンのまち
日高町門別地区	海・山の魅力あふれる美味（うま）・馬（うま）なまち
日高町日高地区	大自然を共に楽しむ沙流川源流のまち
平取町	沙流川と森が育む多文化の息づくまち



「住み続けたいまち」、「訪れてみたいまち」、「また帰ってきたいまち」  
⇒ 町民自らが「守っていききたいまち」、「知ってほしいまち」へ



■ 地域資源活用による地域づくりの考え方



○共通の基盤づくり

- ・ 2 流域・3 町 5 地域住民・関係者間での共通の目的意識の明確化
- ・ 関係者間で連携した取り組みの試行

○広域圏形成による付加価値づくり

- ・ 各地域の特色を組み合わせた商品づくり
- ・ 他地域との人材・情報交流の推進

○事業を推進する人材の発掘と育成

- ・ リーダーシップを有する人材
- ・ 専門性を備えた人材
- ・ 地域内外をつなぐ人材

○効果的な情報発信

- ・ SNS など多様なメディアを活用した PR

○地域間ネットワークによる事業連携

- ・ 民族共生象徴空間が整備される白老町
- ・ 近距離にある道央圏からのリピーターづくり
- ・ インバウンド観光地からの誘客
- ・ 新千歳空港と旭川・帯広を結ぶルートとの相互連携

○事業継続を支える自主財源の確保

- ・ 自主財源を生み出す経営資源の明確化
- ・ 販売・手数料収入と助成金等の確保

○計画的な業実施（PDCA）

◆モデルコース案

滞在型（1 泊 2 日）ツアーコース案

テーマ：「松浦武四郎が見た鶴川・沙流川流域」

松浦武四郎は蝦夷地探検家として名高く、当時人跡未踏だった北海道内陸部の各地を、アイヌの人々に案内してもらい、苦労を重ねながら調査を行い、当時を知ることができる貴重な資料を残している。

2018 年は武四郎生誕 200 年であることから、これを機に当地域を調査した武四郎の足跡をたどりながら、功績を讃えつつ、また、彼が書いたスケッチと現在の景観を比べて楽しむことができるコースが考えられる。

